

木津川アート2014検証会における検討結果

～「木津川アートの継続開催に向けた考え方」

（平成24年検討）を踏まえて～

平成27年3月

木津川市

【概要】

木津川アート2014検証会

日時： 平成27年2月17日 午後7時～

場所： 曽根山会館

目的： 今回の検証会は、平成24年に市としての考え方を整理した「木津川アートの継続開催に向けた考え方※」を受け、初めて開催したものである。木津川アートの継続開催に向けて、今回の木津川アートでの良かった点・改善すべき点など、実際に会場オーナーや見守り隊などのボランティアとして、運営に携わっていただいた方々の意見を聞き、今後の木津川アートの、魅力あふれる更なる成長につなげていくことを目的として実施したものです。

※木津川アートの継続開催に向けた考え方

平成22年から3回の開催を経て、市の内外を問わず広く認知され始め、継続開催を望む声が増えている「木津川アート」について、平成24年「木津川アート検証委員会」を設置して、計4回の委員会を通して様々なテーマについて検証と検討を行い、考え方を整理した。



記載例【今後に向けた考え方】

「木津川アートの継続開催に向けた考え方」の項目毎に整理

(1) 開催計画に関すること

☆以下は、「木津川アートの継続開催に向けた考え方」での記載内容

☆1回の木津川アートの事業期間は、準備期間等を含め約20か月程度とする。
また、準備期間を十分に活用し、開催地域での機運醸成および作家の出展意欲向上を図っていく。

→下線部を追記。

☆木津川アートの企画内容、開催時期、開催場所等を含む事業内容は、市と木津川アートプロジェクト（木津川アート実行委員会）において決定する。

→変更なし。

引き続き、木津川アートの開催目的等を共有し運営を行う。

今回の検証会での意見を踏まえた市の考え方

今回の検証会での出た主な意見

<検証会での主な意見>

- ・期間はちょうどよかった。
- ・事前に住民との関わり・寄りあいの場をもてればよかった。
- ・区や地域から応援・協力を得られたと思う。
- ・地元との接点をもっと持つべきである。
- ・市内の人をもっと増やす工夫を。
- ・全体像がわかりにくかった。事前に具体的な目的と内容を伝えてほしかった。
- ・最初はアートと分からず、何をしているのか不安だった。
- ・関係性の維持が必要。
- ・客数の数値目標を持つべきである。

【今後に向けた考え方】

(1) 開催計画に関すること

☆1回の木津川アートの事業期間は、準備期間等を含め約20か月程度とする。
また、準備期間を十分に活用し、開催地域での機運醸成および作家の出展意欲向上を図っていく。

→下線部を追記。

☆木津川アートの企画内容、開催時期、開催場所等を含む事業内容は、市と木津川アートプロジェクト（木津川アート実行委員会）において決定する。

→変更なし。

引き続き、木津川アートの開催目的等を共有し運営を行う。

<検証会での主な意見>

- ・期間はちょうどよかった。
- ・事前に住民との関わり・寄りあいの場をもてればよかった。
- ・区や地域から応援・協力を得られたと思う。
- ・地元との接点をもっと持つべきである。
- ・市内の人をもっと増やす工夫を。
- ・全体像がわかりにくかった。事前に具体的な目的と内容を伝えてほしかった。
- ・最初はアートと分からず、何をしているのか不安だった。
- ・関係性の維持が必要。
- ・客数の数値目標を持つべきである。

(2) 運営体制（運営組織）に関すること

☆木津川アートの運営主体は、市の決定に基づき、市、観光協会並びにプロデューサー等で組織する「木津川アートプロジェクト」を核とした『木津川アートプロジェクトチーム』とする。

→変更なし。

市の魅力発信の面において、効果の高い事業であることから、今後も市民との協働を深め、運営体制については状況に応じた弾力的なものとし、かつ運営組織の明確化を図っていくと共に、市内部においても組織横断的に連携し取組みをすすめていく。

<検証会での主な意見>

- ・市の柱であり主催ならばもっと重要度を上げ、組織横断的な運営も必要である。
- ・専任人員を設けるなど、担当以外の市関係者も関わりを高め盛り上げていくべきである。

(3) ボランティア、スタッフに関すること

☆市民ボランティアやスタッフの確保や継続的な参画は、木津川アートの運営並びに運営組織に不可欠であることから、最重要課題として取り組む。

→変更なし。

開催地域との関わりを深め、地域住民からもボランティアを募るほか、アート事業・作家等に関する説明会等を事前に行うなど、運営体制の強化に努めていく。

☆新たなボランティア確保の手段として「仮称」木津川アート応援団（サポーター）」を立ち上げる。

→実施済。

木津川アートファンクラブを平成24年に立ち上げ、ファンクラブ情報として、事業の進捗状況等を発信するなか、ボランティア募集等の状況も発信する中でボランティア確保を行っていく。

<検証会での主な意見>

- ・見まもり隊を広くすすめ、ボランティアをたくさん集めたことがよかった。

- 全会場を回ってから受け付けをすると自分なりにイメージがつかめ、案内に役立った。
- 作家との対話で作家生活の有り様を聞き、参考になった。
- 事前に作家さんのことを知らなかったので、聞かれても説明できなくて残念だった。
- 見まもり隊が何をしたらいいか、初めに教えてくれたらいい。
- ボランティアのための「プレ見学会」を行ってはどうか。
- みまもり隊として参加することで、市内の知らない事を教えていただき楽しく過ごせた。

(4) 事業運営に関すること

☆宣伝・PRに関する取組を工夫する。

→変更なし。

これまでからの「ロコミ」効果を高めるためにも、木津川アートファンクラブ以外に、地域との関わりを深めるなど木津川アートを応援してくれる人を増やし、市内における交流人口の増加につながるPRを行っていくなど、これまでの取組に加えて工夫していく。

☆トラブル抑制に向けた取組を進める。

→変更なし。

施設所有者と作家との「思い」の相互理解と情報共有が、時間や機会の不足によって十分図れていなかった事例や、一部スタッフへの負担の増加など、時間的・人力的余裕の不足に伴う課題があったことから、準備期間を活かし、地元・作家・スタッフが共営できる体制づくりに取り組む。

☆まちづくりと地域活性化に関する取組を進める。

→変更なし。

木津川アートの開催を通して、外出機会や地域内外での交流機会の創出につながっているほか、作家についても、制作活動・民家での宿泊（し

ジデンス)・開催期間中の滞在など、開催地域で滞在することにより、人とのつながりが生まれ交流が深まり、新たな絆も誕生していることから、今後も人と人がつながりが生まれる取組みを進めていく。また、多くの方に開催地域を巡ってもらい魅力を知っていただくために、案内地図等の活用を図っていく。

☆展示施設の管理、運営に関する支援や取組を強化する。

→変更なし。

施設所有者と作家およびスタッフとの関係構築のため、情報交換をはじめとした意識共有のために必要な時間やマニュアルなどの連絡体系を設け、双方の信頼性向上を図る。

☆魅力ある木津川アートへの取組を強化する。

- ①作家の創作活動、参加に必要な経費の助成
- ②展示作品の活用（購入など）の検討

→実施済。

木津川アートの成功を握るひとつの大きな要素として作家の存在があり、その出展意欲と参加意欲を誘うことが必要であることから、例として今回取り入れた制作費用補助や表彰制度など、何らかの支援策は継続していくことが求められ、芸術の質を維持し、アートフェスティバルとしての卓越性の確保が必要である。

☆事業費（予算）について

木津川アートの継続開催を前提に、準備や総括を含めた木津川アートの開催に必要な運営費に加え、次の項目を予算計画に含めていく。

- ◆芸術祭の視点から参加作家の募集・審査に要する経費の充実
- ◆展示会場の確保と使用等に要する費用の充実
- ◆参加作家の製作・作品運搬等に関する経費の確保
- ◆企画・運営面におけるスタッフの確保と充実、ボランティア募集と登録など人材の確保に要する経費の拡充
- ◆実際の事業推進に係る宣伝・企画に関する経費の充実
- ◆国や府の補助金の活用
- ◆民間からの協力金等による自己資金の調達方法の検討

→一部実施済。

これまで同様、市の事業として市民の税金で運営をするうえは、効率的で最大限の効果を得るという視点が重要である。

継続的開催のためには「人」「資金」の確保が必要になる。市が運営を行った部分以外に、今回の木津川アートでは一部の運営スタッフが中心となり「木津川アートアドバンス」を立ち上げ、木津川アート2014の運営にも大きく携わるとともに事業の盛り上げの一翼を担った。また事業資金も協力金等による自己運営を試みるなどの新たな展開があった。

木津川アートは、市民との協働、参加・参画により成り立つ、まちづくり事業であることから、今後も「木津川アート」を目的とした多様な主体との連携により、事業費効果を出していくことが必要である。また「人」「資金」を確保することは、単に市からの経費支出に依存せず、将来的には事業の自主的な運営にもつながるものである。

<検証会での主な意見>

- ・参加型の作品があったのがよかった。
- ・レジデンスとして作家との関わりがあってよかった。今も続いている。
- ・ボランティア・客として作家と話ができ嬉しかった。
- ・作家が誰か分かる目印があっても良い。(作家さんの顔が見えなかった。)
- ・作品説明を置いてほしい。よく聞かれるが、応えられない。
- ・相楽神社などでは、作家が何度も在廊して説明してくれて良かった。
- ・作家のいない場所(時間)の為に作品の説明の看板などがあればより愉しんで見ていただけるのでは。
- ・作品についての知識がないので、みまもりにとまどい説明がほしかった。
- ・見学者が間違っよその家に入ってくるがあった。
- ・ポスターに総合案内を記載するべき。
- ・駐車場の確保は適切だった。
- ・食べ物の販売があればいいのに(付近に自販機がない)という声があった。
- ・市内向け(会場以外の地域への周知方法)の宣伝を。
- ・イベントの内容の広報をもっとほしい。
- ・初めての方でもわかる案内が必要、無料地図配布。
- ・案内センター(わかりやすいところ)の設置。
- ・作品残せたらいいのに。
- ・缶バッチ以外にもお楽しみがあると足を運ばれる方が増えるのでは。

(5) 木津川アートの魅力づくりに関すること

①過去に実施したアンケートや反省会で木津川アートの魅力は、『他の芸術祭には無い【緩さや遊び心】』にあると評価されている。

この評価を他の芸術祭との差別化と木津川アートの特色を一層明確にするためのキーワードと位置付け、木津川アートの規模や目的に相応しい形を追求する。

→変更なし。

木津川アートは、毎回開催地が異なることから、地域特性に応じた柔軟性のある運営を主体として、地域ボランティアをはじめ多くの関わりと築いていくことで、より魅力を向上させていくことが求められる。

②木津川アート事業の実施目的は、単に芸術祭の開催ではなく、木津川アートの魅力を通じて生じる様々な効果の発現と獲得であり、これは、木津川アートの本質と定義に深く関わるものである。

このことから、今後も引き続き市民参加と市民協働の機会を幅広く設け、多くの関係者が継続して「まちづくり」としての木津川アートに参加しやすい仕組みづくりを進める。

→変更なし。

今回も多くのマスコミに取り上げられていることから、地域色のある取組みとして定着してきており、「まちづくり」として、市民参加・市民協働のモデルとなるとともに、市内の魅力発信・再発見につなげ、より多くの市民をはじめ来訪者と、まちの良さを共有していくことが必要である。

<検証会での主な意見>

- ・学生・生徒など、子どもたちにもっと見せてあげたい。
- ・会場を離れると関心が薄い
- ・テレビ・新聞でとりあげられた。特にテレビは効果がある。
- ・相楽神社は有名になった。

- 菊の見物客が多かった。
- 心だん静かな場所がにぎやかだった。
- アートが共通の話題に。
- 作家と地元とのかかわり、つながり。
- 昔の写真を見て、住んでいる地域の移り変わりがよくわかった。
- 作品も楽しめだし、歴史にも触れられ、木津川市の素晴らしさを感じた。
- 作品はもちろん、スタンプラリーを楽しんでいる方も多い。
- 木津川アートには今まで知らなかったり行ったことのなかった所を訪れるきっかけをつくる意味もあるのかなと感じた。
- アート理解のすそ野が広がる。
- 京都・大阪など遠方から来られる方とも交流でき楽しかった。
- 木津川アートに興味を持って回られている人の多さに驚き、また嬉しかった。
- エリアを狭くして内味を濃くしてはどうか。
- オープニング・クロージングパーティはいい時間であった。

【「木津川アートの定義」の確認】

木津川アートは、市を実施主体とする『市の総合計画に合致する施策の一つとして、木津川市の魅力発見、魅力発信であり、交流と市民協働による地域活力を活かしたまちづくりの取組』であり、次の5つの要素からなる、『市に従来からある魅力と現代アートの魅力による相乗効果によって創り出される新たな魅力の発信』そして、『市民協働や地域づくりの取組を通じて市民が市の魅力を再認識する機会』と位置付けを再確認し、先に示した【今後に向けた考え方】(1)～(5)に基づき、次回継続開催に向け改善を図っていくことに併せ、今後も事業効果を高めるため、PDCA サイクル【Plan (計画) → Do (実行) → Check (評価) → Act (改善)】による事業実施を行っていくこととします。